

ビジュアルツールを使った プロジェクトチームの協同作業とは？

絵は言葉よりも多くを語ります



Sponsored by:

MindManager[®]

Project 
Management.comsm  powered by



“チームの協同作業をより効果的にし、コミュニケーションをより明確にすることのできる数々のツールがあるにも関わらず、なぜそれらが広く普及していないのでしょうか？”

プロジェクト マネージャーの仕事は楽ではありません。

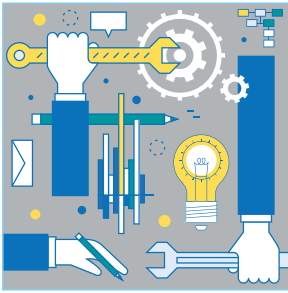
なにしろ、プロジェクトはかつてないほど複雑化してきているのです。ビジネスにおける変化のスピードは加速する一方です。熾烈化する競争社会の真っ只中で、持続可能な顧客価値を提供し続けなければならないというプレッシャーが企業には重くのしかかり、以前にも増して公的資金に対する管理能力が公的組織には求められています。同時に、テクノロジーは時間を追うごとに実現可能な分野を広げていっています。PMI（プロジェクトマネジメント協会）による報告には、次のように記されています。「ビジネスにおける変化のスピードや、熾烈な市場競争のため、今日はあらゆる業界において、どの組織もかつてないほど迅速な適応力が求められている。組織はこれに対応するプロジェクトに着手し、結果が出ることを求めている。」

でも、ちょっと待ってください。少し前に戻って、「テクノロジーは時間を追うごとに実現可能な分野を広げていっています。」のくだり。テクノロジーについては確かにその通りでしょう。しかし、プロジェクト管理の世界にも同様の変化が見られるでしょうか。特に、効果的で効率的なチームワークとなると、いまだ実現されていないのではないのでしょうか。ビジネスにおける変化が加速し、プロジェクトの遂行にもより適応性が求められるようになったのにもかかわらず、このような環境に適した、よりよい方法でプロジェクトチームの協同作業は行われていません。また、これを阻む理由はないはずで、チームの協同作業をより効果的にし、コミュニケーションをより明確にすることのできる数々のツールがあるにも関わらず、なぜそれらが広く普及していないのでしょうか？

効果的なプロジェクトの協同作業を阻む主要因のひとつは、多くのプロジェクトマネージャーが利用できるコラボレーションツールがプロジェクト向けのものでないことです。それどころか、それらのツールは実は真の意味での協同作業に向いていません。ドキュメントの共有や基本的なワークフローの通知以上の機能が提供できることが企業向けソフトウェアの標準であることが求められています。このような従来のツールのアプローチは、例えるなら「結局、何にも適合しない」ものであり、実際に使用してみると、あまり役に立たないため、その後は使用されずに終わってしまいます。

1 Project Management Institute, “Pulse of the Profession 2018 – Success in Disruptive Times”, 2018

プロジェクトにおける協同作業の課題



協同作業を効率的に行うことのできるツールの必要性が高まっていることは確かであり、プロジェクトを遂行させるにはこのような環境は欠かせません。プロジェクトの開始時について考えてみましょう。プロジェクトマネージャーは、様々な事業分野のメンバーを集めたチームを任されます。チームの中には、このプロジェクトに割り当てられたことを快く思わない者もいれば、何をすべきなのかをきちんと理解できない者もいます。また、チームのメンバーが互いに知らない者同士であることもあります。

これらは、プロジェクトマネージャーが各メンバーを結束させ、共に協同作業を行い、成功を達成できるチームの実現を妨げる障壁となります。このような状態ではチームを結束させるのに時間が掛かってしまいます。そして、障壁が多ければ多いほどさらに時間が掛かります。

しかし、プロジェクトマネージャーにはそのような時間はなく、問題になりえます。プロジェクトマネージャーはプロジェクトの開始時には、関係者全員からのインプットが必要な作業を多く完了せねばならず、そういった時間がないのです。利害関係者を見極め、分析し、必要事項を見直して確認し、作業分割構造、見積り、スケジュール、計画などを作成しなければなりません。アジャイルプロジェクトの場合は、必要事項が少し異なりますが、コンセプト自体は同じです。すべての従業員が、迅速かつ効果的に協同作業を行い、基盤となる主要なプロジェクトの構成要素を発展させていかなければなりません。

従来、プロジェクトマネージャーはこれらのタスクに2つの方法を採用してきましたが、どちらも効果的とは言えませんでした。

ひとつ目の方法は、各自にメールや共有ドキュメントを使ってコンテンツのインプットを提供させるというものです。この方法の問題点は明らかです。メンバーは容易にこれを怠ることができるため、協同作業もチームの結束も実現しません。

この方法と比べてより一般的な二つ目の方法は、プロジェクトの重要な各事項に関するグループセッションを行って、メンバー全員が共に作業分割構造(WBS)やリスク登録簿などを構築するというものです。

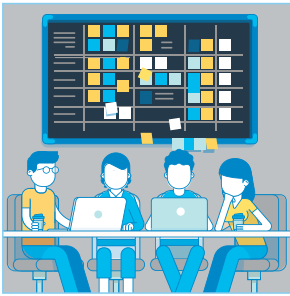
しかし、グループセッションにも問題があります。最も明らかな難点は、全員が同じ場所にいるとは限らず、遠隔地からの出席者がいるということです。現在は、より効果的なオプションであるビデオ会議ソフトの利用が加わりましたが、遠隔地からの出席者がいるセッションでは、依然としてホワイトボードに付箋紙を使用した協同作業を行うことはできません。では、同じ室内にいる者同士で付箋紙を使用できれば協同作業もより楽になるかというと、実際はこの理想とはかけ離れています。8cmほどの用紙では、トピックやその下位項目を収めきるスペースが足りないのです！

また、付箋紙とは、その時点で撮影したスナップショット写真のようなものです。グループセッションを開いた室内では関連性や前後関係が把握されていても、プロジェクトマネージャーがこれらの付箋紙を集めて書き写そうとした段階では前後関係は見失われ、混乱、誤解、ミスを生む結果となってしまいます。

また、付箋紙を使用して作成されたドキュメントは静的なものであり、チームはインタラクティブにプロジェクトを前進させることができません。つまり、セッション自体は、チームの協同作業を奨励して発展させるような方向へ向かってはいるものの、それを持続させるまでにはいたっていないのです。

効果的なチームを迅速に形成するには、より良い方法が必要です。そして、その方法は実在するのです。

バラバラなメンバーで構成されたグループを素早く結束させるには



付箋紙を使った取り組みがよく使用される理由のひとつは、壁に貼られた付箋紙はグループ化したり整理したりすることができ、双方向のビジュアルソリューションとなるからです。協同作業にビジュアルな取り組みを使う方が、シンプルなテキストを使用するよりもはるかに効果的です。

- ビジュアルな表現方法を使った協同作業の方がより多くの情報を伝達することができます。アイデアをグループ化したり、アイデアの間に境界線を引くだけでも関係性を作ることができるため、アイデアに前後関係を提供し、より完全に理解することができます。
- ビジュアルな表現方法を使った協同作業の方がより情報を容易に理解させることができます。ビジュアルな表現なら、専門用語の代わりに使用しても、役割や業務分野の異なる人々にも障壁なく理解させることができます。プロジェクトでは、専門用語が多用される傾向にあります。しかし、そのプロジェクトに関連した業務に日々接していない利害関係者とのコミュニケーションは、できるだけ専門用語の使用は避けた方が望ましいです。
- ビジュアルな表現方法を使った協同作業の方がより素早くシンプルです。人々に言葉だけを使ってコンセプトを説明しようとしても時間が掛かるうえ、もどかしいものです。ダイアグラムを描くことにより要点を図式化の方がはるかに素早く理解させることができると共に、テキストによる説明に伴う「雑音」（余計な情報）をすべて排除することができます。
- プロジェクトチームが協同作業するのに必要な情報は、本質的にはビジュアルなものです。最近の研究結果では、人々が信じているような明確な学習スタイルというものでなく、その対象に適した学習スタイルの方がはるかに効果的であることが示唆されています。学習についての神話や学習スタイルについての研究の主執筆者である Kelly MacDonald は、「種類によっては、内容の多くをビジュアルな表示に頼るものがある。」と述べています。プロジェクト計画における関係やマトリックスなどはすべてプロジェクトを構築するのに重要なツールであり、協同作業を必要としています。そして、それらにはビジュアル表現を使用する方がより優れた表現方法となるのです。

これこそがプロジェクトチームに結束力をもたらすのに必要な要素なのです。ビジュアルな表現方法はより多くの情報を伝え、ムダな時間も浪費せず、理解されやすいのです。実際にどのようにビジュアルな表現方法が使用されるのかを見てみましょう。

今日では、ビジュアル表現を使った協同作業を電子技術で行うことができます。最も基本的なレベルでは、それらはソフトウェアの付箋紙だったり、マインドマッピング製品です。しかし、最適なソリューションというものはそれを超えるものであるはずで。例えば、プロジェクトマネージャーが利害関係者を特定し、分析するためにチームを結束させたり、その他の初期のタスクを行う必要がある際には、協同作業を阻む障壁を乗り越えることを可能にするツールである必要があります。まず初めに、参加者の居場所がどこであったとしてもやり取りすることが可能なツールでなければなりません。オンライン会議ソフトウェアを使用すると、プロジェクトマネージャーはパソコン画面を共有し、会議に出席した人々はこの画面をスクリーンに投影させて見ることができます。即座に同じビジュアル表現を使って全員がやり取りすることができます。

2 PRI.org, “Consider yourself a ‘visual’ or ‘auditory’ learner? Turns out, there’s not much science behind learning styles.”, Julia Franz, September 17th, 2017

“これこそがプロジェクトチームに結束力をもたらすのに必要な要素なのです。ビジュアルな表現方法はより多くの情報を伝え、ムダな時間も浪費せず、理解されやすいのです。”

その上、ツールを使えば、プロジェクトマネージャーはすべてのチームメンバーの情報を入手することができるのです。お互いを知らない者同士でも、名前を肩書や部門でグループ化してビジュアル表示させると、即座にプロジェクトの構成や構造を表示させることができます。ある出席者が発言する際には、名前による自己紹介さえあれば、人々はその人がチームのどの位置に属しているのかを即座に確認することができます。

会議の内容については、リアルタイムでビジュアル表示することにより、協同作業は最もシンプル、直接的、効果的になります。アイデアひとつが把握されると、それは同時に全員にビジュアル表示されます。その後は、全員が同じように明確に理解できるよう、グループがそのアイデアを再定義し、明確化できます。新しくアイデアが追加されるやいなや、これらのアイデア間の関係を見ることが出来ます。ミスが発生しても、即座に修正可能で、すぐには解決できず合意が得られない問題があれば、それを把握した上で、後の検討のために取っておくことができます。



作業が進行するに伴って、アイデア、コンセプト、項目に新しい特徴が追加されることもあります。このような場合に、50個もの付箋紙を再び用意して詳細を追加する必要はありません。数回クリック操作をするだけで済みます。また、アイデアを多数の異なるコンセプトへと分割しても、元のアイデアとの関係を見失わず簡単に成し遂げられます。そして、メンバー全員がグループによる取り組みが展開されていくのをリアルタイムで目の前で見ているため、すべての段階の作業をチームメンバー全員がその都度確認することができます。協同作業やチームワークをこれ以上改善することなんてできるでしょうか？

実は、それが可能なのです。

一回実行したら、繰り返し再利用



業界No.1のビジュアル ツールおよびコラボレーションツールは、単にアイデアを把握してビジュアル表示するだけではありません。情報を既に電子化しているため、その他のオフィス生産性向上アプリと連携させることができるため、コピーする必要もありません。また、これだけに留まりません。プロジェクト遂行のあらゆる段階で情報を提示、管理することができるプロジェクトの直感的で、アクセスしやすい生きた要素です。これらの協同作業の初期段階での情報は次のシナリオにすべてで使用できます。

利害関係者へのコンセプトやアイデアの提示

ビジュアル表示により、チームが共にソリューションやアイデアを創造するのが容易になると同時に、ビジュアル表示によりこれらのアイデアを伝達することもできます。

- プロジェクトマネージャーは、もはや異なる利害関係者に準備するためにプレゼンテーション資料を構成したり更新したりする必要はなく、コラボレーション ツールのグラフィックスを直接使用するだけで済みます。
- ビジュアルなコラボレーションツールを使うとリアルタイムでやり取りができます。概要情報を見たり、各要素の詳細情報にアクセスして評価したりできます。
- 情報を様々な異なる方法で提示することができるため、プレゼンテーションを容易に異なる利害関係者の優先事項に合わせてカスタマイズすることができます。

プロジェクト全体にわたって作業を管理

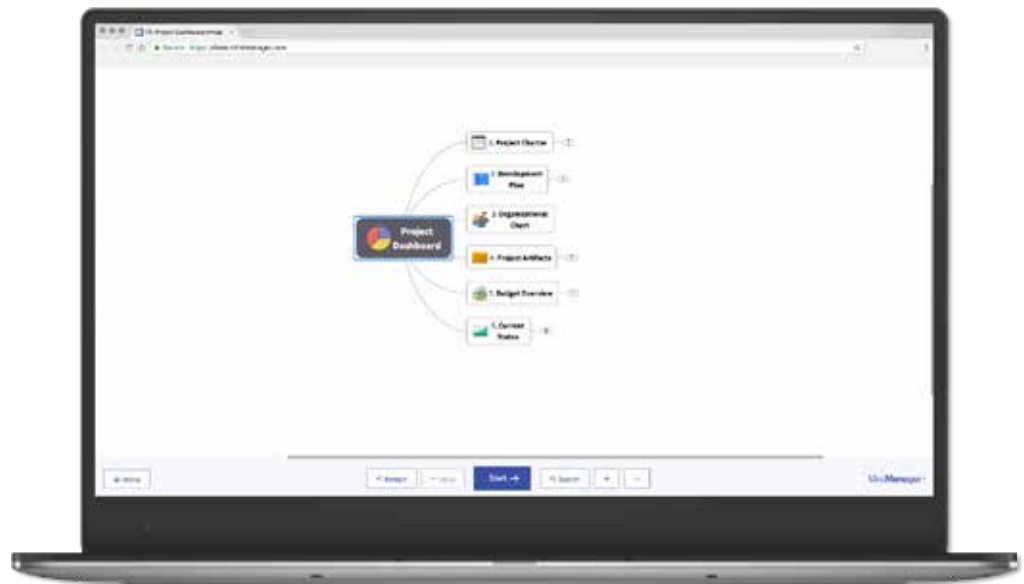
今日のソフトウェアソリューションは、ボックスを作成してそれらを矢印で連結させることができるだけではありません。プロジェクト全体にわたって各項目に複数ある特徴を把握し、管理をサポートし、コンセプトを意義ある方法で扱うことができる必要があります。

- 時間をベースとした項目を使って、ガントチャートやその他の時間に焦点を当てたビューを使ってプロジェクトのスケジュールを作成できる必要があります。
- リソースの情報を追加すると、作業スケジュールを見ることができ、リソースのデータは仕事量および処理能力の情報を提供し、タスクステータス情報は進捗状況を提示するなどの機能が必要です。
- 時間に焦点を当てたビュー以外にも、ステータス情報は、カンバン表示（一般化しつつあるステータスの表示方法）にも対応し、期限切れまたはリスクのある項目を表示し、より注意を要する問題やリスクにフラグを付けることができる必要があります。

個人の生産性改善

プロジェクトに関する多くの情報を入手する場所が一つ所と決められていれば、プロジェクトマネージャーはかなりの時間を省くことができます。特に、すべてのプロジェクト業務の源である協同作業と直接関連した場所から入手できれば、なおさら効率的です。

- プロジェクトマネージャーは、複数の異なるシステムで情報を更新したり、信頼できないスプレッドシートを使って情報を複数のソースから統合させる必要はなくなります。その代わりに、より価値の高い仕事に集中し、チームを引率し、問題解決に取り組むことができます。
- チームメンバーは、業務を項目によって割り当てられるため、作業をより効果的かつ効率的に管理することができます。自分の業務がプロジェクト全体のどの位置に該当するかをビジュアルに表示して確認することができるため、依存関係や関連業務を理解することができます。
- ユーザーは誰もが同じビジュアルツールを使って各自のタスクリストや作業スケジュールを作成することができるため、従来のプロジェクト管理ソフトと比べてはるかに各自が作業をコントロールすることができます。



最近のビジュアルソリューションおよびコラボレーションソリューションによりプロジェクト達成の効果や効率性を高める方法は無限と言っていいほど数多くあり、このことはプロジェクトを成功させるにはますます重要になってきています。

しかし、なぜこれらのツールがもっと多くのプロジェクトで活用されていないのでしょうか？

導入前の障壁とその打開

コラボレーションツールはほとんどの組織で使われています。最近の調査結果によると、半数以上の組織が、最低6つのコラボレーション ツールを使用したことがあり、16%は10以上のツールを使用したことがあると回答しています。なぜこのように数多くのツールが使われるかというと、多くの場合、これらの組織内にある複数の組織や部門によって協同作業に対する見解が異なるためです。多くの企業向けツールには、コラボレーションモジュール（プロジェクトポートフォリオ管理または PPM プラットフォームを含む）が含まれていますが、その機能性や使用可能性は業界一のコラボレーションツールとは比べ物になりません。その上、それらの多くは、ドキュメント管理ソリューションを進化させたものであるため、ビジュアル表示が操作の中心にはないため、導入を困難とする要因になっており、使いやすさに限界があります。

IT 部門も、部門ごとに異なるアプリケーションを多くサポートするとなると、たとえそれらの価値が高く、フットプリントが低くても、管理費を考慮すると望ましいとは見なしません。このため、業界分野ごとに異なるソフトウェア製品が各自で購入され、それらにより部分的にビジュアルツールが設けられることとなり、ベストプラクティス アプリケーションとして企業全体に導入、または活用されるまでにはいたりません。

これらの障壁を取り除くのは、困難なことではないはずですが、プロジェクトマネージャーや組織側の意識的な努力が必要になります。両者とも、できる限り効果的で効率的にプロジェクトを達成し、限られた投資額で最大限の結果を生み出したいと願っています。ですから、プロジェクトマネージャーは、最適化された価値を最大限まで生み出すことが可能なツール、テクニック、業務スタイルを見極める必要があります。組織は、これを組織全体にわたって実現するための投資を行う準備ができていなければならない必要があります。

これを読んでいるあなたは、あなたに関与するプロジェクトの協同作業を改善したいと願っており、またビジュアルツールがこれを改善できることにお気付きのことと思います。ですから、ここでこれらのソリューションを入手するための行動を起こしてください。

- 組織内であなたを最も支援してくれる人を見極めましょう
- 優先すべき機能を定義しましょう
- これらのニーズにマッチするソリューションを見極めましょう
- 試行する候補を選び、実際のプロジェクトおよびチームを準備しましょう
- 最適な製品のみを選定に目標を定め、これをすべてのプロジェクトおよび事業分野で使用し標準化させましょう

プロジェクトの達成方法の改善は困難で、時間が掛かることもあります。しかし、協同作業をビジュアルな表現方法を使って改善する場合には、そのような問題はありません。それどころか、効果や効率性、全体的なプロジェクトのパフォーマンスの面におけるメリットを実際に期待できるのです。

3 Smartsheet.com “2017 State of Enterprise Collaboration” - <https://www.smartsheet.com/2017-enterprise-collaboration-report>

MINDMANAGER について

MindManager

MindManager は、市場で最も強力な、カスタマイズ可能な情報の「見える化」ソフトウェアです。あなたの潜在的な可能性を引き出し、情報やチームを結びつけ、生産性を新しいレベルに引き上げ、大きな仕事もいままで以上に速くこなせるようになります。MindManager 2019 で、見るもの、創るもの、コミュニケーションの限界を打ち破り、仕事やビジネスを成功させましょう。今すぐ無料でお試しください。
<https://www.mindjet.com/jp/myfreetrial>.

PROJECTMANAGEMENT.COM について



2000年に創立されて以来、弊社は、プロジェクトマネージャーの成功を高める、というシンプルなミッションを掲げて参りました。ProjectManagement.com は、プロジェクトマネージャーが必要とするサポートを経験に基づいた様々な方法で提供します。情報技術やその他の業界のプロジェクトマネージャー、そしてあなたのためのコミュニティです。プロジェクトマネージャーが新しい課題に直面しても自信を持って取り組むことができるよう、困ったときにヘルプや様々な回答を提供するサイトです。当サイトを通じて、業界のエキスパートによって執筆された4千以上の記事や時間の節約に役立つ1千以上の資料テンプレートが入手できるだけでなく、120万人もの仲間との繋がりやエキスパートからアドバイスなどが得られます。

PMI (プロジェクトマネジメント協会) について



PMI (Project Management Institute) は、プロジェクト、プログラム、またはポートフォリオ管理を専門とする方々のための世界有数の協会です。1969年に創立されたPMIは、世界的な支援、協力、教育、研究活動を通じて世界のほぼすべての国における3百万人以上の専門家に価値を提供しています。キャリアを支援し、組織の成功を高め、プロジェクト管理専門職の方々のために、世界的に認知された標準、認定、コミュニティ、リソース、ツール、学術的研究、出版物、専門的能力開発コース、ネットワーク構築の機会などを提供しています。PMIファミリーの一員としてProjectManagement.comは、より多くのリソース、より優れたツール、より大きなネットワーク、より広い視点を提供するグローバルコミュニティを形成しています。

[PMI.org](https://www.pmi.org)、[ProjectManagement.com](https://www.projectmanagement.com)、[Facebook.com/PMInstitute](https://www.facebook.com/PMInstitute)、[Twitter @PMInstitute](https://twitter.com/PMInstitute) をご覧ください。

Copyright ©2018 ProjectManagement.com. All rights reserved. ADS-104-2018 (08/18)

Sponsored by:

MindManager

Project 
Management.com powered by 